

JARL 全日本 10,000 局アワード 申請書作成ファイル

ver1.2 2021.7.20

作成：JA0IAA 佐田 浩

1. 概要と使用上の注意

- 1) このファイルは、**JARL が発行する全日本 10,000 局アワードの申請に必要な QSL リストをハムログのデータから作成するエクセルファイル**です。
- 2) Windows10 Professional・Excel2019 および Windows10 Home Premium・Excel2010 で作成・動作を確認しています。ファイル形式は 97-2003 形式 (.xls) ですが、データ並び替え機能を活用するため、2010 以降の機能が必要です。
ハムログは ver5.32 を用いました。
- 3) 入門レベルで結構ですが、エクセルの知識が必要です。
- 4) 説明は、Excel2019 を使用した場合です。一部、Excel2010 の場合の変更点を追加しました。
バージョンによって、操作方法が異なる場合がありますので、適宜読み替えて下さい。
- 5) プリントアウトには、**A3 対応のプリンタが必要**です。A4 への対応は現在予定していません。
- 6) 可能な箇所は PC で処理していますが、**一部（WAJA に使用する局に付与する○）は手書き**です。PC で処理・プリントするには、多数の関数式が必要になり、ファイルが肥大化します。
- 7) 大量のデータを整理することで、作業の負担を低減するために作成しています。
くれぐれも、
『QSL のチェックをせずに申請することが絶対ないようにお願いします』。
- 8) 自筆サインが必要な上、ファイルサイズが大きいため**電子申請は出来ません。必ずプリント・郵送し申請して下さい**。
- 9) 提出書類以外であっても一部シートを削除すると、正常に動作しないことがあります。
- 10) このファイルは無料でお使いいただけます。ユーザーが直接入力しない多くの作成シートにプロテクトがかけてあります。
- 11) 私の申請書で動作をチェックしていますが、万が一バグがあった際はレポートをお願いします。
- 12) 不具合による申請書類の返却・申請料の損失については、責任を負いかねます。

2. 作成方法の選択

WAJA リストの作成と 10,000 局リストの作成には相反する問題があります。

WAJA を先に作成する場合：

同一局と異なるバンドで QSL を得た場合、全データから検索する必要があります。

(重複なしで検索すると、古いデータを優先するため)

この際は、WAJA で使用した QSL 以外のデータをすべて削除しなければ、10,000 局のデータに活用出来ません。同一局と複数回 QSL を得る事例は多々あります。

WAJA を先に作成しない場合：

コールサインを重複しないように検索すれば、10,000 局のデータに活用できます。

WAJA は別途修正作成する必要があります。

以上の理由から、10,000 局リスト作成を優先し、WAJA は一部手作業で修正・作成します。

3. 必要データの抽出

この項目は、エクセルのバージョンによって異なるようです。

試行錯誤の結果、エクセル 2019 の作業方法で説明します。

1) ハムログのデータをエクセルに変換します。

「検索」 → 「複合条件検索と印刷」をクリック、コールサイン順 (重複なし)、エクセルに出力と設定し、検索 1 をクリックします。

複合条件が表示されるので、ユーザーの使用方法に応じてさらに絞りこみます。

私の場合、国内は時間を JST、DX は UTC で入力しているので、TIME の欄を日本時間の

「 : J」とし、国内局のみ検索します。あとは QSL 受領のみのマークを入力します。
「実行」をクリックすると、少し時間がかかりますがエクセルでファイルが開きます。

2) データで不要な列を削除します。

D 列 : Time E・F 列 : His (RST) My (RST)
J 列 : G・L K 列 : QSL 受領マーク
L 列 : Name N 列以降 : Remarks1、Remarks2、Flag

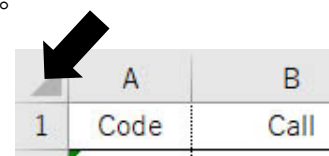
3) 新しく F 列になった Code を A 列へ移動します。

F 列の CODE をコピー → A 列へ貼り付け → F 列の CODE を削除

A	B	C	D	E	F
Code	Call	Date	Freq	Mode	QTH
0818		93/05/09	144	FM	
270108		00/06/18	21	SSB	
2502		98/08/11	21	SSB	
22014A		99/05/22	18	SSB	
3401	4	97/06/07	18	SSB	
350105		93/06/08	21	SSB	
4101		91/09/22	7	SSB	
4020		97/09/07	7	SSB	

4) 日付 (Date) の年が 2 桁しか表示されていないので、修正します。

まず**全データを選択**します。選択は、行列番号の交差する箇所
(行番号 1 の上、列番号 A の左) をクリック、シート全体をグ
レーにします。



5) 「並べ替えとフィルター」から「ユーザー設定の並び替え」をクリック、右上の「先頭行をデー
タの・・・」をクリックしてレ点を付けます。

「レベルの追加」をクリック、最優先するキーの項目を下記のように設定します。

並べ替え ? X

先頭行をデータの見出しとして使用する(H)

列	並べ替えのキー	順序
最優先されるキー	Date	セルの値
		昇順

OK キャンセル

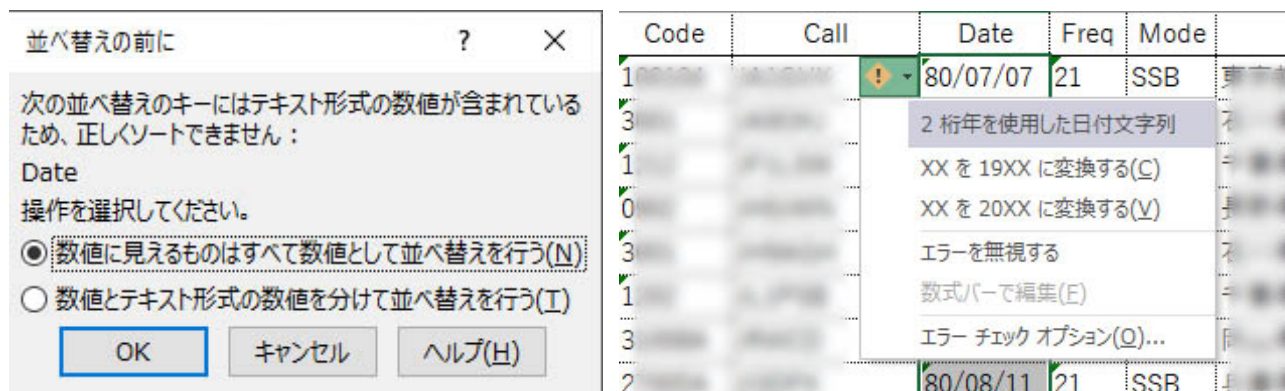
6) 実行すると、左下図のような「並び替えの前に」ウィンドウが表示されます。2 項目のうち、上の条件を選択し OK をクリックすると、年月日順にデータが並びます。

7) 並び替えられた日付をクリックすると、右下のような ! マークが表示されます。マウスを置くと、2 桁の年数を 4 桁に変換する機能が出てきます。

1999 年以前は変換する範囲をドラッグ・選択し、「19XX に変換」を実行して下さい。

この際、Date の列幅は 2 文字多く表示されるように広げてください。

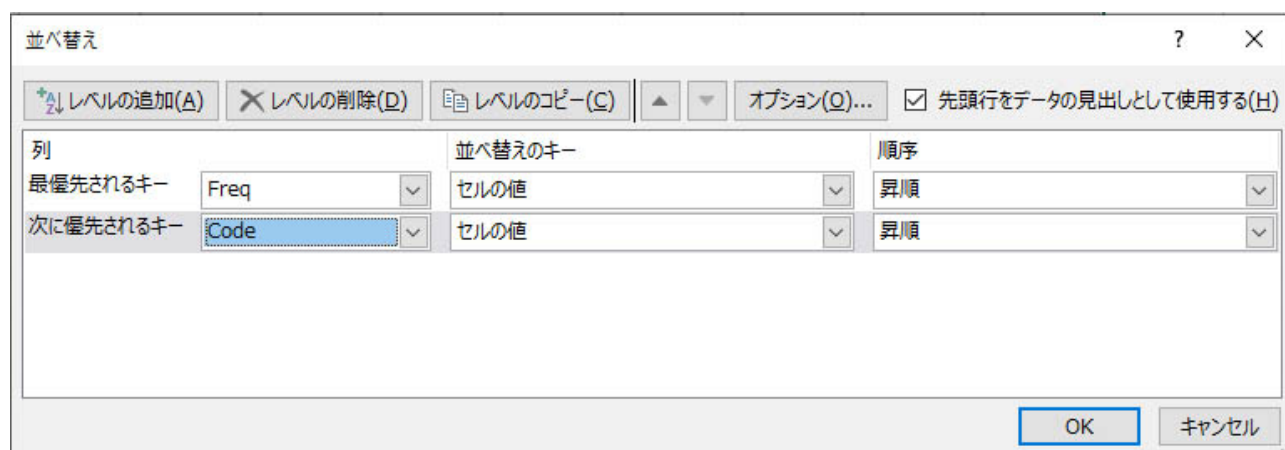
2000 年以降も同様に範囲を選択、「20XX に変換」を実行して下さい。



4. WAJA データの抽出

データから、各バンド別の WAJA データを抽出します

- 1) 全データを選択します。
- 2) 「並び替えとフィルター」から「ユーザー設定の並び替え」をクリック、下記のような設定を行い、OK をクリックします。



ここで、前項同様に「並び替えの前に」というウィンドウが表示されるので、次のようにします。

並べ替えの前に ? X

次の並べ替えのキーにはテキスト形式の数値が含まれているため、正しくソートできません：
Freq
操作を選択してください。

数値に見えるものはすべて数値として並べ替えを行う(N)

数値とテキスト形式の数値を分けて並べ替えを行う(I)

OK キャンセル ヘルプ(H)

Freq は上の項目

並べ替えの前に ? X

次の並べ替えのキーにはテキスト形式の数値が含まれているため、正しくソートできません：
Code
操作を選択してください。

数値に見えるものはすべて数値として並べ替えを行う(N)

数値とテキスト形式の数値を分けて並べ替えを行う(I)

OK キャンセル ヘルプ(H)

Code は下の項目

- 3) 並び替えが完了、任意のセルをクリックし選択を解除します。
これで、バンド順・都道府県番号順番にデータが並びます。

A	B	C	D	E	F
Code	Call	Date	Freq	Mode	Q T H
01006F		1995/3/11	3.5	SSB	北海道 釧路(後志) 十勝
01007C		1994/3/12	3.5	SSB	北海道 釧路(後志) 十勝
01008A		1995/2/26	3.5	SSB	北海道 釧路(後志) 十勝
010102		2000/3/11	3.5	SSB	札幌市
010103		1998/3/14	3.5	SSB	札幌市
010105		1993/4/11	3.5	SSB	札幌市
010106		1993/5/1	3.5	SSB	札幌市
010108		1995/3/11	3.5	SSB	札幌市
01018C		1993/4/4	3.5	SSB	北海道 釧路(後志) 十勝
01019A		1996/3/9	3.5	SSB	北海道 釧路(後志) 十勝
0102		1993/3/28	3.5	SSB	北海道 釧路(後志) 十勝
01026A		1993/3/13	3.5	SSB	北海道 釧路(後志) 十勝

- 4) 上記データから、WAJA に採用するデータを抽出します。
大切なことは、**WAJA の組数が少ないバンドから作業すること**です。1、2枚しか QSL が無い都道府県があるのであれば、これを優先して下さい。

- 5) **WAJA に使用する QSL を決め、無記入の G 列にバンドとシート番号を示す数字を入れます。**

例えば、3.5MHz の 1 枚目であれば”31”、50MHz の 2 枚目であれば”502”とする等、です。

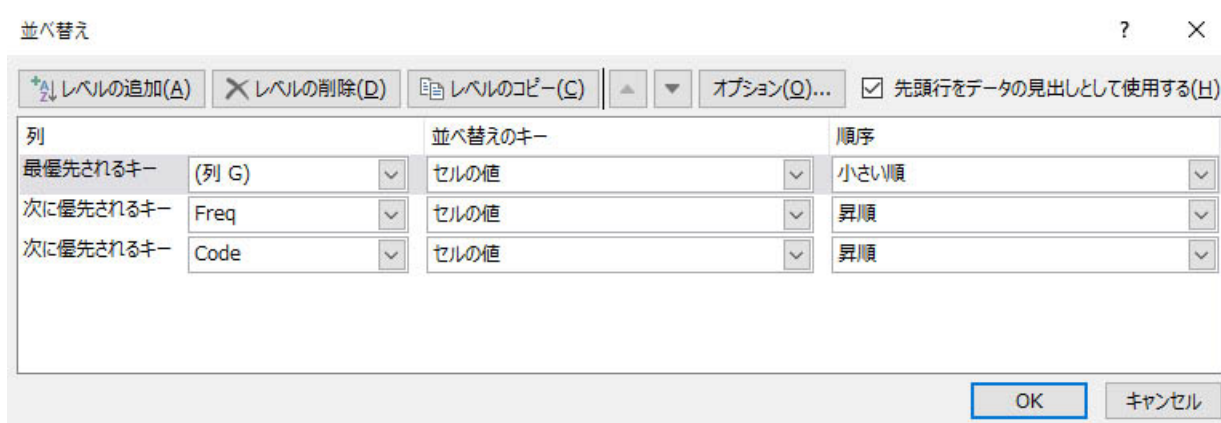
順番に並べる目的なので、1.9MHz の 1 枚目は”21”、21MHz の 3 枚目は”213”とすれば、バンド順に並びます。

ここで、手持ちの QSL と照合しておいて下さい。

WAJA データを探したが、見つからない。QSL はあるのだが・・・という場合は、既に **WAJA で適用したか、他のバンドのデータとして拾っている可能性があります。**

この場合は、絶対必要なデータをハムログで検索 (QSL で確認) し、データを上書き変更して下さい。ルールでは、1 局 1 バンドしか認められていません。

- 6) 下記の設定でソートします。列 G は、5) で入力したシート番号を示す数字です。
 順番に注意して再設定します。
 Freq、Code で「並び替えの前に」が表示されたら、前記と同じ処置をして下さい。
 エクセルのバージョンによっては、「小さい順」が「昇順」と表示されることがあります。



- 7) ソートして得られた 47 都道府県データを選択、コピーして申請書へ貼り付けます。
 申請書は、当方でも制定された書式で作成しています。
 市郡区ナンバーがありますが、念のため QTH も備考にコピーしました。
 無くても構いませんが。

市郡区番号	市郡区名	市郡区番号	Freq	Mode	備考
01008A	北海道	01008A	3.5	SSB	
0201	青森	0201	3.5	SSB	
0301	岩手	0301	3.5	SSB	
0401	秋田	0401	3.5	SSB	
0501	山形	0501	3.5	SSB	
0604	宮城	0604	3.5	SSB	
0707	福島	0707	3.5	SSB	
0816	新潟	0816	3.5	SSB	
0901	長野	0901	3.5	SSB	
1002	東京	1002	3.5	SSB	
110112	神奈川	110112	3.5	SSB	
120102	千葉	120102	3.5	SSB	
1310	埼玉	1310	3.5	SSB	
1402	茨城	1402	3.5	SSB	
1501	栃木	1501	3.5	SSB	
1605	群馬	1605	3.5	SSB	
1703	山梨	1703	3.5	SSB	
180101	静岡	180101	3.5	SSB	
1902	岐阜	1902	3.5	SSB	
2009	愛知	2009	3.5	SSB	
2104	三重	2104	3.5	SSB	
220106	京都	220106	3.5	SSB	
2301	滋賀	2301	3.5	SSB	
24001C	奈良	24001C	3.5	SSB	
2504	大阪	2504	3.5	SSB	
26003B	和歌山	26003B	3.5	SSB	

市郡区番号	市郡区名	市郡区番号	コールサイン	交	年	月	日	周波数帯	電波型式	備考
(No.)	(Callsign)				(e)	(Band)	(Mode)	(Remarks)		
1	北海道	01008A	JAPDK		2016	12	26	3.5	SSB	北海道庁無線局 (16/9)※
2	青森	0201	JAPQJ		2016	12	26	3.5	SSB	青森県無線局
3	岩手	0301	JAPQK		2016	12	26	3.5	SSB	岩手県無線局
4	秋田	0401	JAPQL		2016	12	26	3.5	SSB	秋田県無線局
5	山形	0501	JAPQO		2016	12	26	3.5	SSB	山形県無線局
6	宮城	0604	JAPQL		2016	12	26	3.5	SSB	宮城県無線局
7	福島	0707	JAPQL		2016	12	26	3.5	SSB	福島県無線局
8	新潟	0816	JAPQI		2016	12	26	3.5	SSB	新潟県無線局
9	長野	0901	JAPQD		2016	12	26	3.5	SSB	長野県無線局
10	東京	1002	JAPQJ		2016	12	26	3.5	SSB	東京都無線局
11	神奈川	110112	JAPQK		2016	12	26	3.5	SSB	神奈川県無線局
12	千葉	120102	JAPQO		2016	12	26	3.5	SSB	千葉県無線局
13	埼玉	1310	JAPQK		2016	12	26	3.5	SSB	埼玉県無線局
14	茨城	1402	JAPQL		2016	12	26	3.5	SSB	茨城県無線局
15	栃木	1501	JAPQO		2016	12	26	3.5	SSB	栃木県無線局
16	群馬	1605	JAPQK		2016	12	26	3.5	SSB	群馬県無線局
17	山梨	1703	JAPQL		2016	12	26	3.5	SSB	山梨県無線局
18	静岡	180101	JAPQJ		2016	12	26	3.5	SSB	静岡県無線局
19	岐阜	1902	JAPQO		2016	12	26	3.5	SSB	岐阜県無線局
20	愛知	2009	JAPQK		2016	12	26	3.5	SSB	愛知県無線局
21	三重	2104	JAPQK		2016	12	26	3.5	SSB	三重県無線局
22	京都	220106	JAPQO		2016	12	26	3.5	SSB	京都市無線局
23	滋賀	2301	JAPQO		2016	12	26	3.5	SSB	滋賀県無線局
24	奈良	24001C	JAPQO		2016	12	26	3.5	SSB	奈良県無線局
25	大阪	2504	JAPQO		2016	12	26	3.5	SSB	大阪府無線局
26	和歌山	26003B	JAPQO		2016	12	26	3.5	SSB	和歌山県無線局

- 8) コピーしたデータのフォントを、原紙と揃えます。セルの罫線も消えるので追加します。データ類は中央に揃えると体裁が良くなります。

*コピー後に！で警告が出ることがあります（セルの左上の緑のマークが対象）が、！をクリックして「エラーを無視する」をクリックして下さい。

- 9) コピー元ファイルのコールサインのセルに色を付けておきます。これは、**WAJA で使用した QSL である、という印**になります。

色は認識出来れば十分ですが、バンド別に色を変えると便利でしょう。

- 10) 蛇足ですが、市郡区ナンバーで末尾に英文字があれば、削除をおすすめします。

英文字は、ジャパンアワードハンターズグループ (JAG) が市町村アワードを発行する際に制定したもので、JARL とは関係ありません。

あっても受け付けてもらえるとは思いますが。

- 11) リストの中で QTH が不明であるようなデータ・QSL があれば、削除して下さい。

- 12) コールサイン順に並べ直します。

下のようなルールで call のみ並び替えます。

数字プリフィクス (7J0) から始まり、7*、8*、JA1、JA2・・・という順番に並ぶはずですが。順番は後で処理しますので、このままで結構です。

7010E	JP5AFI	1993/3/10	3.5
301	JAR0F2	1993/3/11	3.5
301	JAR0A	1993/3/11	3.5
026	JAR0C	1994/1/8	3.5
L006F	JAR0D	1993/3/10	3.5
2007A	JAR0E	1993/3/11	3.5
301	JAR0F	1993/3/11	3.5
403	JAR0G	1993/3/11	3.5
501	JAR0H	1993/3/11	3.5
3011C	JAR0I	1994/3/12	3.5
702	JAR0J	1993/4/4	3.5
L0102	JAR0K	1993/4/5	50
201	JAR0L	1993/5/19	50
3009A	JAR0M 7	1993/6/7	50
405	JAR0N 7	1993/7/5	50
506	JAR0O	1993/7/14	50
30101	JAR0P	1993/8/10	50
7011C	JAR0Q	1993/8/11	50
301	JAR0R	1993/8/11	50
3003G	JAR0S	1993/8/14	50
30118	JAR0T	1993/7/8	50
L0113	JAR0U	1994/8/12	50
219	JAR0V	1993/8/9	50
304	JAR0W	1994/7/7	50
...

並べ替え ? X

先頭行をデータの見出しとして使用する(H)

列	並べ替えのキー	順序
最優先されるキー	Call	昇順
並べ替えのキー	セルの値	昇順

- 13) ここまでで作成した 1 万局以上のデータに名前を付けて保存して下さい。次項で使用します。

5. 10,000 局 QSL リストの構成

いよいよ 1 万局のデータを編集・リストを作成します。

まず、ファイル構成を説明します。

- 1) 10,000 局 QSL リスト作成ファイルを開くと、ウインドウ下に多数のファイル名が表示されます。

下にシート名 INPUT、COUNT 等が表示されていることを確認して下さい。

それぞれクリックすると、シートが変わります。



- 2) ファイルの構成について

本ファイルは以下のシートで構成されています。

名称	シート数	内容	プロテクト
INPUT	1	コールデータを入力 (印刷不要)	なし
COUNT	1	エリア別集計表 (自動)	あり
S1-S17、S17-2	18	QSL リストおよび補助リスト (自動)	あり
PRE	1	プリフィックスのデータ追加 申請者コール・氏名・総シート数の入力 (印刷不要)	なし
CAIN	1	コールデータの一時保管 (印刷不要)	あり

- 3) INPUT シートについて

コールサインを入力し、コールサインを順番に並べるとともに、不要なデータを最終の QSL リストに反映させないようにする機能があります。

「反映させない」という意味は、データは残しておりいつでも再復活が可能、ということです。

従って、**行単位でデータを削除しないようにお願いします。**

各列の定義について説明します。

A 列： データ数を示す数字

誤って A 列を削除した場合、以下の数式を入力して下さい。 =ROW()-1

B 列： コールサインを入力

C 列： データを有効にするか、無効にするかのフラグ

D 列： エリアを設定する番号

G 列： 移動・数字プリフィックスの検索情報

H 列： プリフィックスのみ抽出

I 列： プリフィックスのエリアのみ抽出

J 列： サフィックスの文字数

G 列から J 列は、並び替えに必要なデータが自動的に関数で計算されます。
通常は入力禁止なので、誤入力を避けるために G-J 列は非表示にしています。
必要であれば再表示可能ですが、**これらの列には絶対にデータを入力しないで下さい。**

(参考)

G 列： 移動・数字プリフィックスを検索

J から始まる常置場所・同一エリアへの移動局：1

数字から始まる常置場所・同一エリアへの移動局：2

J から始まる他エリアへの移動局：3

数字から始まる他エリアへの移動局：4

H 列： プリフィックスのみ抽出

I 列： プリフィックスのエリアのみ抽出

J*1 は 1、J*2 は 2、・・・、J*0 は 10 です。7K-7N は 1 です。

その他数字で始まるプリフィックスは、シート PRE に登録された情報から決定します

随時追加可能ですが、特殊なプリフィックスは除外したほうが良いでしょう。

J 列： サフィックスの文字数

2 文字は 2、3 文字は 3 です。4 文字は 4、5 文字は 5・・・となります。

6. 申請者名・コールサイン・総シート数の入力、特別プリフィックスの登録

各シートには申請者名・コールサインの記入が必要です。

シート PRE をクリックし、コールサインと氏名、総シート数を入力して下さい。

シート数は 10,000 局で 17、7,500・5,000・2,500 局でそれぞれ 13、9、5 です。

全てのシート上に、コールサイン氏名・総ページ数 (* / 総ページ) が入力されます。

但し、10,000 局のリストを一気に作成することを目標にしたので、総ページを 17 にしてあります。7,500 以下の場合、総ページを修正して下さい。

また、7K1 から 7N4 は 1 エリアです。2-4 エリアとミスカウントしないように、このファイルで登録してあります。

JA の場合、3 文字目の数字でエリアを認識していますが、仮に JAA1 なんてプリフィックスが出てきたら、多分動作しないと思います Hi。

以前、8J90XPO という 3 エリアの局がいましたが、除外いただくか、エリアを 3 と手入力して下さい。

7. 10,000 局 QSL リストの作成

- 1) 10,000 局 QSL リストのファイルを開きます。
- 2.) 前項で作成・保存したデータのうち、コールサインの箇所をドラッグしてコピー、INPUT のシートを表示させ、列の B2 以下（コールサインと書かれている箇所の下）にコピーします。
データは、**最大 14,000 局まで利用可能**です。貼り付けても構いません。
この際、**WAJA で使用したコールサインはセルに色が付いたままになっているはず**です。
1 万個以上のセルコピーが、難しい方は、数回に分けてコピー貼り付けを繰り返して下さい。
- 3) この INPUT シートは入力が可能なので、誤って指定外の箇所にデータを入力すると不具合が発生します。
くれぐれも以下の箇所は絶対に手を触れないでください。
 - ・ 1 行目の項目名
 - ・ 1 列目のデータ番号 対処方法は前述してあります
 - ・ G から J 列までの列 (触れないように非表示にしてあります)
- 4) D 列（エリア）に、運用場所のエリア番号を**半角数字**で入力して下さい。
1 エリアは 1、2 エリアは 2、・・・、**0 エリアは 10** です。
JR0ZZZ/0 は、0 エリアの運用なので 10 です。
JK0ZZZ/1 は、1 エリアの運用なので 1 です。
半角数字で入力して下さい。/MM とか/P のような**無効の QSL は 11 以上**を入れて下さい。
同じデータを入力し続ける箇所が多々あります。オートフィル機能を活用して下さい。
「オートフィル」って何？という方は、検索してお調べ下さい。
移動局が複雑で不要であれば、次項の方法で除外しておけば無記入で結構です。
- 5) リストから除外したいデータを決めます。
C 列に**採用するデータは 1、除外するデータは 0 を半角数字で入力**します。
ここでは、エリア別の最大局数を抑えたり、明らかに使いにくいコールサインを除外する程度にとどめておきます。後で QSL との照合でデータを除外するので、大雑把に考えて下さい。
最大 14,000 局までに抑えていただければ結構です。
なお、JA で一般的なプリフィックス 3 文字でない局は、除外されることをおすすめします。
(サフィックスは 1-4 文字で正常に使えますが、念のため。)
ここで生きてくるのが、**WAJA で採用した QSL に付けたセルの色**です。**絶対に除外しないでください**。色を付けた意味、ご理解いただけたでしょうか。
- 6) 並び替え（ソート）の機能を使い、並び替えを実行します。
 - a) 全セル選択ボタンをクリックし、全セルを選択 (第 3 章で書いたことです)
 - b) ホームタブの右端 「並び替えとフィルター」 → 「ユーザー設定の並び替え」をクリック
レベルを変更・追加して次のような「並び替え」を設定します。

除外 : 列 C 大きい順 (降順)
 エリア : 列 D 小さい順 (昇順)
 移動 数字 prefix : 列 G 小さい順 (昇順)
 PREFIX : 列 I 小さい順 (昇順)
 プリフィクス表示 : 列 H
 文字数 : 列 J 小さい順 (昇順)
 コールサイン : 列 B

注記: この表記は、エクセルのバージョンで異なりますので、() を参照下さい。

列	並べ替えのキー	順序
最優先されるキー 除外	セルの値	大きい順
次に優先されるキー エリア	セルの値	小さい順
次に優先されるキー 移動 数字 prefix	セルの値	小さい順
次に優先されるキー PREFIX	セルの値	小さい順
次に優先されるキー プリフィクス表示	セルの値	昇順
次に優先されるキー 文字数	セルの値	小さい順
次に優先されるキー コールサイン	セルの値	昇順

c) 右下の OK をクリックすると、有効な局のコールサインが順番に並びます。

コールは以下の順番に並んでいるはずです。

- 1) JA1 の 2 文字サフィックスから始まり、JA1 の 3 文字、JE1、JF1、・・・JR1、JS1
同一エリアの移動は、コール順に並びます
- 2) 数字で始まる 1 エリア 7K1、7K2、7K3、7K4、7L1、7L2、・・・7L4、8J1、8N1
- 3) 他エリアの 1 エリア移動 JA2***/1、JE2***/1、・・・、JS2***/1、8J2***/1、
JA3***/1、JE3***/1、・・・、JS3***/1、8J3***/1、JA4***/1、・・・、JR0***/1、
8J0***/1
- 4) J で始まる 2 エリア JA2、JE2、JF2、・・・、JR2、JS2
同一エリアの移動はコール順に並びます
- 5) 数字で始まる 2 エリア 8J2、8N2
- 6) 他エリアの 2 エリア移動 JA1***/2、JE1***/2、・・・、JS1***/2、7K1***/2、
7K2***/2、・・・、7N4***/2、8J2***/1、・・・、JA3***/1、・・・、JR0***/2、8J0***/1
- 7) 以下、3-0 エリアまで繰り返し
- 8) 規定外のデータが最後に並びます 例: JA****/MM、 JH****/P

正しくない場合は、C・D列の入力文字を確認して下さい。

- d) 不要データ（QSLカードを照合し、使わないデータ）を除外します。

「除外」のC列の『1』を『0』に書き換えます。

再ソートを実行します。除外データが後半に移動することを確認します。

<注意>

不要データは、行削除せずにC列の数字変更で実行して下さい。

行削除しても問題ないように配慮してありますが、削除データは復活出来ません。

- 7) 必要データがあれば追加します。

ハムログのデータに無かったが、必要なコールが見つかった場合は、最下行に追加します。

コールを入力、**C列は『1』、D列はエリア番号を前述のルールで入力**します。

入力後、再ソートを実行します。

- 8) 除外したデータを復活します。

除外したデータが再び必要になった場合、C列の数字を『0』から『1』に変更、再ソートします。

- 9) データの修正があれば実行します。

ハムログデータの誤り（コールサインの誤入力）があれば、修正します。

また、複数QSOした局で他エリア運用のQSLを利用したい場合は、コールサインとエリアを変更し、再ソートします。

例： JA1XXX、JA1XXX/0のQSLを持っているが、データはJA1XXXである
JA1XXX/0のデータを利用したい（0エリアとして使いたい）

→ コールをJA1XXX/0に変更 エリアを1から10に変更

この方法は、局数が足りないエリアで必要なことがあります。

- 10) データ数を調整します。

編集したINPUTのデータで、リストに反映される有効数が、右隣のCOUNTシートに表示されます。

本アワードは、各エリア最少500局、最多1,500局の規定があります。

不要なデータを上記5)と同じ要領でC列を「1」から「0」に変更します。

入力後、ソートを実行します。

調整には、若干のコツがあるので、実行前に次項をお読みください。

8. QSL リストの仕上げ

1) 1 番目のシート S1 から S17 まで順番にコールサインが表示されていることを確認します。1 枚あたり 600 局です。

1 枚 640 局記載可能ですが、未記入の箇所はチェック後の修正（手書き）に利用します。

プリントアウト後のチェックで無効データがあっても、コールを線で抹消・同じページに追記します。

証明者から指摘があって訂正する場合、最後のシートに追記するのは、審査する側からは負担になります。

2) シート内で訂正可能なように、データ数を調整します。

例えば、最初から全てのコールを隙間なく使用し、最後のデータだけを削除したとします。1 エリアあたり 2-3 枚にわたってデータがある場合、途中で誤りや不備があっても抹消する場合、シート内では追加出来ません。

600 局のデータが 1 局ずつ減って、599、598、・・・と半端になるのは、避けたいところです。

作成途中なら、**後続ページを含めて再プリントが必要**ですが、無駄ではありませんか？

私の場合をご紹介します。

最初の 1 エリアは多数あったので、1,500 局弱でシート 2 枚半を使用します。これに合わせるために、**シート 1 枚目のデータを一部無効に**します。

例えば、シート中央付近のデータです。再ソートすると、無効データが消えて局数が減ります。

さらに 2 枚目のシートの中央付近を無効にします。再ソートし、さらに 3 枚目を続けます。

JARL 全日本アワード 交信局数 リスト													申請者	コールサイン	局数	2/17	
所持証明	コールサイン	書名	コールサイン	書名											局数		
記入欄	Remarks	○47都道府県リスト記載局															
Callsign	Callsign	Callsign	Callsign	Callsign	Callsign	Callsign	Callsign	Callsign	Callsign	Callsign	Callsign	Callsign	Callsign	Callsign	Callsign	Callsign	Callsign
1	JG																
2	JG																
3	JG																
4	JG																
5	JG																
6	JG																
7	JG																
8	JG																
9	JG																
10	JG																
11	JG																
12	JG																
13	JG																
14	JG																
15	JG																
16	JG																
17	JG																
18	JG																
19	JG																
20	JG																
21	JG																
22	JG																
23	JG																
24	JG																
25	JG																
26	JG																
27	JG																
28	JG																
29	JG																
30	JG																
31	JG																
32	JG																
33	JG																
34	JG																
35	JG																
36	JG																
37	JG																
38	JG																
39	JG																
40	JG																

この付近のデータを
無効にして調整

こうすれば、採用したデータに不具合があった場合、無効にしたデータを一部復活させ、**後続のページに影響を与えずに修正プリント**が可能です。都度、COUNT シートで局数を確認して下さい。

甘く見ると、最初の数ページの修正のために最後のページまで再プリント、という無駄を繰り返すこととなります Hi。

3) 局数を規定に収めます。

私個人の考え方ですが、**局数は 1%程度増やして余裕をお持ちになることを推奨します。**

あれこれドジをやって、証明・審査で抹消・追加だらけになっても、何とかあります Hi。

DXCC では 100 を申請する際、数枚多めに提出して審査を受けます。ぴったりで申請し、1 枚でも不備があったから返却、では困りますね。申請料はどうなるのでしょうか？

このファイルでは、最後の 17 枚目は 500 局になっています。

600 局 × 16 枚 = 9,600 局ですから、17 枚目を加えて 10,100 局です。

1 エリアあたり最低 500 局が必要ですが、少ないエリアは 2%程度増やした 510 局以上では如何でしょうか。

17-2 は、500 局でなく 600 局を記載した場合です。最後に WAJA に使う局が存在する場合に欠落しないようにする等、微妙な確認・調整に 10,101-10200 局を表示しています。

通常は必要なものではありません。

4) シートに文字表示の不具合が無いチェックします。

コールの間違いは、INPUT に戻って修正して下さい。

ハムログデータの入力ミスもありますが、**/1 など移動局表示が抜けている場合はかなりありました。**複数 QSL を持っている局の QSL を抽出した時、たまたま移動 QSL を選んだ、あるいは逆の場合、わざわざ差し替えるよりは簡単に対処出来ます。

私はエクセル 2019 で Windows10 標準フォントの游ゴシック、サイズは 10 を使っていますが、フォント形式・サイズに好みがあると思います。

長いコールサイン・文字の幅によっては、セルの罫線からはみ出ます。

JX1XXX/JD1 というコールでは、明らかにはみ出しました。

私は、文字はなるべく大きいほうが見やすいと考えたので、現状のままにしましたが、気になる方はセルを指定してフォントの種類・サイズを変更して下さい。

MS ゴシックは文字幅が狭いので、入りやすくなります。

シートはプロテクトがかけてあり、**直接の文字入力が出来ませんが、表示の変更（フォントの色・セルの塗りつぶし等）は可能**です。

9. 10,000 局 QSL リストの印刷

印刷には A3 仕様のプリンタが必要です。キヤノンの A3 対応レーザープリンタで動作を確認しています。必要に応じて余白・倍率を調整してご利用下さい。

A3 でも証明者のサインは 17 枚必要です。JARL 作成の A4 だとこの倍！証明をお願いする方に嫌われないために (Hi)、A3 対応のみとします。

必ず印刷プレビューで仕上がりに問題がないか確認して下さい。

エクセルで、編集画面では文字がセルに収まっているも、プリントするとはみ出してしまうのは良くあることです。

必要に応じ、フォントサイズを変更して下さい。

10. コールエリア別集計表の印刷

コールエリア別の集計表を印刷します。

JARL から現時点公開されているフォームは使えないので、当方独自のフォームです。特に問題ないことを確認しています。

これも自動計算でプロテクトをかけてあります。

行番号が 14001 から始まっているのは、INPUT のデータを細工して集計しているからです。

除外しない数字”1”と、エリアを示す数字を掛け算すると、1 から 10 になります。この数字をカウントしているだけなのです。

入力間違いがない限り、カウントミスはありません。

11. 各種お願い

1) くだいようですが、リストと QSL のチェックは必ず実行して下さい。

私ができるのは、10,000 局のリスト作成の苦勞を低減することだけです。正直なところ、QSL の整理とチェック・修正には死ぬほど!?苦勞しました。

前身であるよみうりアワードは、指定された 10,000 局のシート原紙に手書き、あるいはエクセルでフォームを作成しデータを貼り付けたのではないかと思います。

エクセルデータ貼り付けは、1 局誤りがあったら 1 セルずつ移動するという気の遠くなる? 作業が必要でしょう。

これで楽になったから、と申請が雑になってはいけません。

よみうりアワードでは、厳しいチェックがあったと聞いています。実際、公開ルールにない独自ルール（マネージャーの独断?）もありました。

アクティブな方が受賞出来る名誉なアワードです。品格を落とさないようにご理解下さい。

2) WAJA 適用の QSL のマーク○は手書きにしています。

自動設定も不可能ではありませんが、10,000 のセルに関数を設定することになり、ファイルが肥大化します。

アナログな部分も必要でしょう。我慢して下さい Hi。

3) 入力すべきシートを限定し、提出するシートにプロテクトをかけてあります。

17 枚のシートに直接文字を誤入力すると、申請書自体が支離滅裂になります。当面、プロテクト解除のパスワードは公開しません。

4) シートはそれぞれリンクしているので、削除しないで下さい。

一番右のシート CAIN は、シート 1-17 に使用するコールサインデータが並んでいます。

これは各 QSL シートに入力する式を簡潔にするためのものです。（式は非表示）

INPUT にあるデータは CAIN にコピーされ、さらに各シートへコピーされます。

CAIN が無いと、気の遠くなるほどの関数式が必要になり、バグ取りが困難になるのです。

5) 自分自身の書類作成で、使いやすさを考慮してシートを作成しました。

実際に適用しているのでバグは無いと思いますが、明らかな動作異常はご連絡下さい。

連絡は、私の web サイトに記載されているメールアドレスからお願いします。

電話は固くお断りします。

6) 作成されたファイルのサポートは、バグ内容の報告・相談のみお受けします。

データを入力・作成したファイルだけで 12MB 強あります。このままメールで送ると、一部プロバイダでは送信エラーになります。

また自筆サインしてスキャナで PDF 化すると、**読み込み画像として扱われるので、ファイルサイズは一気に大きくなります。**

（実験してみて、A3 で 1 枚あたり 2MB 強!、圧縮してもほぼ変化なし）

JARL への申請はもちろん、絶対に全ファイルを送ってチェックしてくれ、ということがないようお願いします。

近所の詳しい方にご相談下さい。

- 7) 機能改善要望については参考にするかもしれませんが、バージョンアップは予定していません。
- 8) 10,000 局ばかりを強調していましたが、2,500、5,000、7,500 局を申請される場合は、データ数を減らしてご活用ください。
(10,000 局未満の途中で申請しよう、という気で作成していなかったもので Hi)
データを除外の 0 にすれば累計局数にはカウントされませんが、リストにはプリントはされるので、斜線で抹消する等の処置をお願いします。
- 9) 個人利用については問題ありませんが、第三者へ配布し生じた問題については責任を負いません。まあ、仲間内で申請しよう！と言えるほど楽なものではありません。

履歴

Ver.1.0	2021.2.1	基本ファイル作成	(非公開)
Ver.1.1	2021.5.15	機能修正・マニュアル作成	
Ver.1.2	2021.7.20	マニュアル見直し・修正	